

民生委員アンケート集計結果

○アンケート概要

- ・配布数：210枚 回収数：138枚 回収率：65.7%
- ・回答者の性別：男38人(27.5%)、女76人(55.1%)、無回答24人(17.4%)
- ・回答者の住所：石和41人(29.7%)、御坂22人(15.9%)、一宮24人(17.4%)、八代16人(11.6%)、春日居18人(13.0%)、境川12人(8.7%)、芦川4人(2.9%)、無回答1人(0.7%)

設問1：あなたが地域で受けている相談にはどのようなものがありますか。(複数回答)

子ども		働きざかり		高齢者	
(人) n=39 (28.3%)		(人) n=32 (23.2%)		(人) n=95 (68.8%)	
1 子育て	19 48.7%	生活困窮	21 65.6%	ひとり暮らし	66 69.5%
2 引きこもり	15 38.5%	引きこもり	8 25.0%	介護保険・福祉サービス	55 57.9%
3 虐待	8 20.5%	ひとり暮らし	4 12.5%	介護	40 42.1%
4 生活困窮	6 15.4%	虐待	3 9.4%	生活困窮	38 40.0%
5 介護保険・福祉サービス	3 7.7%	介護	3 9.4%	引きこもり	9 9.5%
6 介護	1 2.6%	子育て	2 6.3%	虐待	7 7.4%
7 ひとり暮らし	1 2.6%	介護保険・福祉サービス	1 3.1%	その他	12 12.6%
8 その他	7 17.9%	その他	2 6.3%		

設問2：あなたが地域で受けている相談で気になっている相談にはどのようなものがありますか。(複数回答)

n=14		n=12		n=47	
1 子育て	7 50.0%	生活困窮	6 50.0%	介護保険・福祉サービス	29 61.7%
2 引きこもり	6 42.9%	引きこもり	5 41.7%	ひとり暮らし	23 48.9%
3 虐待	4 28.6%	虐待	1 8.3%	生活困窮	20 42.6%
4 生活困窮	3 21.4%	介護	1 8.3%	介護	18 38.3%
5 介護保険・福祉サービス	1 7.1%	介護保険・福祉サービス	1 8.3%	虐待	5 10.6%
6		ひとり暮らし	1 8.3%	引きこもり	3 6.4%
7		その他	1 8.3%	その他	5 10.6%

設問3：あなたが地域で受けている相談で増えている相談にはどのようなものがありますか。(複数回答)

n=2		n=3		n=42	
1 虐待	1 50.0%	生活困窮	3 100.0%	ひとり暮らし	26 61.9%
2 子育て	1 50.0%			介護保険・福祉サービス	23 54.8%
3				介護	11 26.2%
4				生活困窮	8 19.0%
5				引きこもり	1 2.4%
6				その他	1 2.4%

設問4：地域で相談を受けたときに、その相談を解決するために、あなたは関係者や関係機関に相談や連絡をしますか。(複数回答)

n=37		n=30		n=85	
1 民生委員	19 51.4%	社会福祉協議会	17 56.7%	社会福祉協議会	69 81.2%
2 市役所	16 43.2%	市役所	12 40.0%	包括支援センター	53 62.4%
3 本人の家族・親戚	15 40.5%	包括支援センター	10 33.3%	本人の家族・親戚	38 44.7%
4 社会福祉協議会	12 32.4%	本人の家族・親戚	8 26.7%	民生委員	35 41.2%
5 包括支援センター	11 29.7%	民生委員	8 26.7%	ケアマネジャー	31 36.5%
6 地区の区役員	9 24.3%	地区の区役員	9 30.0%	地区の区役員	27 31.8%
7 ケアマネジャー	2 5.4%	ケアマネジャー	2 6.7%	市役所	26 30.6%
8 警察・消防	2 5.4%	警察・消防	2 6.7%	警察・消防	8 9.4%
9 相談や連絡をしない	1 2.7%	その他	4 13.3%	どこに相談したらよいかわからない	1 1.2%
10 その他	11 29.7%			その他	3 3.5%

設問5-1：住民からの相談を関係者や関係機関に相談や連絡をしたことで、住民からの相談は解決しましたか。

※設問5-2は省略

n=138		(無回答除き再計算) n=109	
1 解決した	42 30.4%	解決	42 38.5%
2 多くは解決した	40 29.0%	(解決+多くは解決)	40 36.7%
3 あまり解決していない	25 18.1%	解決しない	25 22.9%
4 ほとんどしていない	2 1.4%	(あまり+ほとんどしない)	2 1.8%
5 無回答	29 21.0%		

障がい児者	(人)	
	n = 23 (16.7%)	
生活困窮	8	34.8%
介護保険・福祉サービス	6	26.1%
虐待	4	17.4%
ひとり暮らし	4	17.4%
引きこもり	3	13.0%
介護	3	13.0%
子育て	2	8.7%
その他	6	26.1%

	n = 7	
虐待	2	28.6%
ひとり暮らし	2	28.6%
介護	1	14.3%
子育て	1	14.3%
介護保険・福祉サービス	1	14.3%
その他	2	28.6%

	n = 2	
生活困窮	1	50.0%
子育て	1	50.0%
介護保険・福祉サービス	1	50.0%

	n = 19	
社会福祉協議会	14	73.7%
包括支援センター	7	36.8%
市役所	7	36.8%
民生委員	5	26.3%
本人の家族・親戚	4	21.1%
地区の区役員	3	15.8%
ケアマネジャー	1	5.3%
相談や連絡をしない	1	5.3%
その他	1	5.3%

★設問1～3について

- ・民生委員が受けている・気になる・増えている相談のいずれも「高齢者」である。数は少なくとも、他の対象者についても相談を受けており、民生委員は地域の身近な相談窓口として大きな役割を担っているといえる。
- ・アンケート形式の問題もあるかもしれないが、設問1～3の未記入が28票であった。これらの全員が全く相談を受けていないとは限らないが、設問7から相談を待っているがこないとの回答もあること、最も多く受けている高齢者相談でも95人(68.8%)と7割弱であり、相談を受けていない委員もいる可能性がある。民生委員間の活動状況に大きな差があることが考えられる。
- ・設問1では、いずれの対象においても、「生活困窮」が相談の1～6割弱を占めている。また、働きざかり世代では、「生活困窮」がいずれの設問でも6～7割である。
- ・これらから、生活困窮は子どもを持つ家庭から高齢者までの課題であり、笛吹市でも市全体の課題として捉え、対応を進める必要がある。
- ・子どもについては、設問1、2で「子育て」「虐待」が大きな問題である。働きざかり世代につながる「引きこもり」の相談も4割と多い。「その他」は、保育・学童に関する施設や証明書、通学路安全点検等、子育て環境についてである。
- ・障がい児者については、4つの対象者の中で最も少ないが、生活困窮が大きな問題となる。「その他」は就職関係が1件の他は記載がなく、詳細はわからない。
- ・高齢者では、設問1～3いずれも「ひとり暮らし」「介護保険・福祉サービス」が多い。ひとり暮らしの増加、介護保険認定者数の増加という社会背景と一致している。「その他」は12名中11名記載なしであり、詳細は不明である。
- ・設問3で高齢者が突出して多いのは、地域における独居や高齢世帯の増加、認知症などの心身状態の変化などで相談が増加していると考えられる。今後も相談が増えていくと予測される。

★設問4について

- ・高齢者では、社協や包括が相談先として多く上がることは予想通りであるが、それ以外でも上位にある。相談を受けた場合、普段から接点の多い人や機関が相談しやすいことが考えられる。
- ・民生委員相互の相談の割合も高い。同じ立場での経験や考え方が相談の解決にとって役立つばかりでなく、互いに相談し合い、わかり合うことで活動自体にも良い影響を与えているのかもしれない。
- ・社協が相談先として割合が高い理由は、社協が①各地域に事務所があり、各種事業を協働で行うことが多く、日常的に接点があることで民生委員にとって身近な機関であること、②高齢、障がい、権利擁護、ボランティア、その他地域課題に関して幅広い活動で様々な分野の相談に対応できることなどが考えられる。

★設問5-1、5-2について

- ・相談が解決した理由と解決しない理由のそれぞれの意見をまとめると、問題解決の要因は「相談先と連携(役割を果たす)」「地域住民の力」「本人の意欲」といえる。これらの要因がすべての相談に揃うことが重要である。
- ・「相談先との連携」について、相談後のフィードバックとの回答が少数でもあることは、スムーズな連携や信頼関係に支障を生じる原因となる。早急に改善すべき点といえる。

設問6：民生委員の立場で、地域住民の生活上の困難を解決するために
必要なことは何だと思いますか。（複数回答）

	n = 1 2 4		キーワード
1 民生委員が相談を受けた場合、関係機関や関係者に相談や連絡をすること。	99	79.8%	相談をつなぐ
2 地域の人たちが、要援護者等の見守りをする。	76	61.3%	地域での見守り
3 民生委員が関係機関や関係者に相談や連絡をした場合、その結果の報告を受けること。	71	57.3%	情報
4 民生委員に地域住民の協力があること。	51	41.1%	協力・連携・調整
5 民生委員に社会福祉協議会の協力があること。	49	39.5%	協力・連携・調整
6 民生委員が地域の区役員との連携や調整が上手くとれること。	44	35.5%	地域
7 生活上の課題のある地域住民が相談しやすい場所があること。	36	29.0%	相談窓口
8 民生委員が民生委員間での連携や調整が上手くとれること。	29	23.4%	協力・連携・調整
9 生活上の課題のある地域住民の個人情報が開示されること。	26	21.0%	情報
10 民生委員が専門的(高齢者・障がい・児童他)な相談や連絡ができる窓口があること。	25	20.2%	相談窓口
11 民生委員が身近に相談できる人がいること。	22	17.7%	相談窓口
12 民生委員に市役所の協力があること。	22	17.7%	協力・連携・調整
13 民生委員が夜間休日等でも相談や連絡ができる窓口があること。	21	16.9%	相談窓口
14 地域の人たちが、要援護者等宅へ直接、訪問や電話をして声かけをすること。	16	12.9%	地域での見守り
15 地域の人たちが、要援護者等の日常生活を支援すること。(買い物、通院など)	13	10.5%	地域での見守り
16 特になし	1	0.8%	-
17 その他	1	0.8%	-

★設問6について

- ・選択肢をキーワードに分けてとらえると、生活上の困難を解決するために必要なことは、「相談をつなぐ」ことが最も多く、次いで「地域での見守り」である。相談を受けたら一人で抱えずに関係機関につなぐことが必要と考えている。これは設問5の問題解決の要因とも一致する。
- ・「地域による見守り」では、直接的な支援より、雨戸の開閉や電気点灯の有無、郵便物等が溜まっていないか等、間接的な見守りが必要と考えている。
- ・相談窓口については、専門より身近な場所ある、気軽に相談できる場所を求めている。
- ・情報について、関係機関からの情報のフィードバックがないこと、個人情報の開示についてが課題となる。
- ・関係機関、職員との「協力・連携・調整」では、地域住民と社協の協力の必要性が強調されている。社協が民生委員や地域住民との関係を強化し、積極的に地域づくりを行っていくことへの期待が大きいことを示していると捉えることができる。
- ・設問で指定した回答方法と異なる回答票（指定した数以上に○を付ける）が多くあった人も多かった。集計上は無効としたが、内容の傾向としては同様の結果が読み取れた。

設問7：地域住民が安心して暮らせる地域づくりのためのご意見等がありましたらお書きください。
(自由記述)

★設問7について

- ・最も多かった意見は、地域での見守り活動の充実についてである。地域住民が日頃から住民同士の交流があり、声かけ・見守り・支え合いができる地域づくりを行うことにより、相談に対応できるだけでなく、次世代を担う子どもを育成しやすく安全な町、非常時にも備えられる町にもなるというものだった。
- ・地域には、区の未加入問題や若い世代の協力が難しい等の実情がある。相談機関・支援者には、地域性を考慮したアプローチで地域づくりをすすめることが求められるが、これらの実情に応じた対応（区単位だけにしばられない対応、区に入っていない方の見守り等の対応など）について検討を進めていく必要がある。
- ・続いて多かったのは、相談関係機関の充実についての意見である。その中で、相談窓口については、専門的な相談窓口より、身近な場所で何でも気軽に相談できる場を必要としていることである。これは、相談しやすい場所がほしいという設問6の意見とも一致している。相談先（関係機関）との連携して問題に取り組むことができること、相談先からのフィードバックがあることというのも、設問5、6と一致している。
- ・民生委員活動のさらなる充実が必要という意見もあった。設問1～3より、民生委員は日頃より地域のもっとも身近な相談窓口として様々な住民の相談を受けている。地域の力を発揮していく上でも、同じ地域住民である民生委員の協力は不可欠であるが、相談を待っていると思われる委員もあり、民生委員間での意識の違いもあると思われる。共通した意識をもち、共に地域づくりに取り組むための方策について、民生委員とともに検討していくことも必要である。
- ・設問5、6とも共通しているが、問題解決には、相談機関・支援者、地域住民による支え合いばかりでなく、問題を抱えた本人・家族の意欲や行動が重要である。本人・家族が意欲を持ち、行動できるように関わることが支援者として必要である。

◎まとめ

- 1 民生委員は地域において様々な対象の相談を受けており、最も多いのは高齢者に関する相談である。地域住民の身近な相談者としての役割を果たしている。
- 2 相談先としては、どの対象者においても社協・包括支援センターが上位である。社協は、民生委員と協働する機会が多く身近な機関となっていること、幅広い地域福祉活動で様々な分野の相談に対応できることなどがその理由として考えられる。
- 3 問題が解決するためには、①相談関係機関の充実、②地域住民の支え合いの力（間接的な支援と直接の支援）、③本人・家族の意欲と行動力が要因といえた。
- 4 安心して暮らせる地域づくりのためには、①地域住民による支え合い（直接の支援よりも日頃からの交流、声かけ、見守りなどが中心。自然な声かけが地域づくりにつながる）、②困った時に何でも相談できる身近な窓口があること、③相談機関とのスムーズな連携・調整・協力（支援結果などの情報のフィードバックを含む）、④問題解決に取り組むことができるよう本人・家族の持つ力を発揮できる働きかけ（専門職、地域支援者、地域住民各々の役割を持ち働きかける）、⑤支援者（専門職、地域住民等）が実践に生かせるような学習・研修による人材育成が必要である。
- 5 地域づくりでは地域の実情に応じた支援が必要であるが、自治組織（区）の範囲に限定されない広域の地域づくりへの支援、自治組織に加入していない住民や地域活動への協力が困難な住民を包摂した地域づくりが課題としてあげられた。

子育て関係者アンケート集計結果

○アンケート概要

- ・配布数：43枚 回収数：25枚 回収率：58.1%
- ・回答者の住所：石和11人(25.6%)、御坂4人(9.3%)、一宮3人(7.0%)、八代3人(7.0%)、春日居2人(4.7%)、境川2人(4.7%)
- ・回答者の所属：保育所・園11人(44.0%)、学童保育8人(32.0%)、NP0等3人(12.0%)、認定こども園1人(4.0%)、無回答2人(8.0%)

I ①：あなたが直接受けている保護者からの相談について伺います。（複数回答）

設問1：どのようなものですか。

設問2：気になっているものはありますか。

設問3：増えているものはありますか。

[選択肢]	[人] [割合] n = 25	[選択肢]	[人] [割合] n = 25	[選択肢]	[人] [割合] n = 25
1 子どもの成長・発達	23 92.0%	子どもの成長・発達	18 72.0%	子どもの成長・発達	13 52.0%
2 子どもの交友関係	19 76.0%	世帯の家庭環境	9 36.0%	子どもの交友関係	6 24.0%
3 子どもが利用している時の様子	16 64.0%	子どもが利用している時の様子	8 32.0%	子どもが利用している時の様子	5 20.0%
4 世帯の家庭環境	10 40.0%	子どもの交友関係	7 28.0%	世帯の家庭環境	2 8.0%
5 子ども・子育ての制度	8 32.0%	世帯の生活困窮	4 16.0%	子ども・子育ての制度	2 8.0%
6 世帯の生活困窮	2 8.0%	世帯のDV	3 12.0%	世帯の生活困窮	1 4.0%
7 世帯のDV	2 8.0%	地域での孤立	3 12.0%	その他	1 4.0%
8 その他	2 8.0%	子ども・子育ての制度	2 8.0%		
9 子どもの虐待	1 4.0%	その他	2 8.0%		
10 地域での孤立	1 4.0%	子どもの虐待	1 4.0%		
(その他の内容) 夫婦関係・育児相談		(その他の内容)		(その他の内容) 夫婦関係	

★設問1～3について

- ・保護者から直接相談を受けている割合は非常に高い。
- ・回答者の所属による差は見られなかった。
- ・保護者が気になり、相談が増加していることは、子どもの成長発達や交友関係の状況、利用時の様子であった。
- ・職員は、子どもの成長発達のほか、家庭環境にも関心を寄せている。
- ・少数だが、生活困窮、虐待に関する相談があり、家庭での養育環境についての保護者の不安あることがわかる。
- ・これらから、保護者からの相談は少なくとも、保護者の子育てについての不安の強さがうかがえる。また、子どものことのみならず家庭のことまで相談が及ぶなど相談の質的な広がりもあり、職員の相談への対応の重要性が増しており、適切な対応が求められている。

I ②：直接の相談はなくても、子どもや保護者の様子などから 見えてくる課題について伺います。（複数回答）

設問4：どのようなものですか。

設問5：気になっている
ものはありますか。

設問6：増えているものは
ありますか。

[選択肢]	[人] [割合] n = 25	[選択肢]	[人] [割合] n = 25	[選択肢]	[人] [割合] n = 25
1 世帯の家庭環境	17 68.0%	子どもの成長・発達	17 68.0%	子どもの成長・発達	10 40.0%
2 子どもの成長・発達	15 60.0%	世帯の家庭環境	10 40.0%	世帯の家庭環境	7 28.0%
3 子どもの交友関係	7 28.0%	子どもの虐待	5 20.0%	子どもが利用している時の様子	4 16.0%
4 子どもの虐待	5 20.0%	子どもの交友関係	4 16.0%	子どもの交友関係	3 12.0%
5 地域での孤立	5 20.0%	子どもが利用している時の様子	4 16.0%	子どもの虐待	1 4.0%
6 子ども・子育ての制度	5 20.0%	世帯の生活困窮	4 16.0%	世帯の生活困窮	1 4.0%
7 子どもが利用している時の様子	4 16.0%	地域での孤立	3 12.0%	世帯のDV	1 4.0%
8 世帯の生活困窮	3 12.0%	世帯のDV	1 4.0%	地域での孤立	1 4.0%
9 世帯のDV	1 4.0%	子ども・子育ての制度	1 4.0%	子ども・子育ての制度	1 4.0%
10 その他	1 4.0%	その他	1 4.0%	その他	1 4.0%
(その他の内容) 夫婦関係		(その他の内容) 夫婦関係		(その他の内容) 記載なし	

★設問4～6について

- ・保護者から直接の相談とは異なり、回答者の所属によらず「世帯の家庭環境」が上位に入っている。
- ・設問4の「子どもが利用している時の様子」について、学童保育では4件（100%）であった。逆に「子ども・子育ての制度」に関しては0件であった。
- ・学童保育では、設問4、5のいずれでも、「子どもの虐待」、「世帯の生活困窮」は1件、「世帯のDV」は0件であった。
- ・これらから、職員は子どもの様子から家庭環境の状況を感じ取り、それを課題と認識しているといえる。また、家庭環境は子どもの成長発達に影響を与えることから、そのどちらにも注意を向けていることがいえる。この傾向は、学童保育より保育所・幼稚園等のほうが大きいといえることができる。

II. Iで回答された内容につき、伺います。

設問7：Iで回答された内容を解決するために、

あなたは関係者や関係機関に相談や連絡をしますか。（複数回答）

<回答者全体>		<学童のみ>		<保育所・幼稚園・NP0等>	
[選択肢]	[人] [割合] n = 25	[選択肢]	[人] [割合] n = 8	[選択肢]	[人] [割合] n = 17
1 市行政	18 72.0%	学校	6 75.0%	市行政	16 94.1%
2 学校	13 52.0%	子どもの家族	5 63.0%	県行政	7 59.8%
3 子どもの家族	9 36.0%	同じ職場の上司や同僚	5 63.0%	教育委員会	7 59.8%
4 教育委員会	8 32.0%	市行政	2 25.0%	学校	7 59.8%
5 同じ職場の上司や同僚	8 32.0%	民生委員児童委員	2 25.0%	同業者	5 29.4%
6 県行政	7 28.0%	教育委員会	1 12.5%	子育て支援センター	4 23.5%
7 子育て支援センター	5 20.0%	子育て支援センター	1 12.5%	子どもの家族	4 23.5%
8 同業者	5 20.0%	主任児童委員	1 12.5%	子育ての活動をしている団体	3 17.6%
9 子育ての活動をしている団体	3 12.0%	社会福祉協議会	1 12.5%	同じ職場の上司や同僚	3 17.6%
10 民生委員児童委員	3 12.0%	その他	1 12.5%	社会福祉協議会	2 11.8%
11 社会福祉協議会	3 12.0%	(その他の内容)		民生委員児童委員	1 5.9%
12 主任児童委員	2 8.0%	相談には至らない些細な相談		主任児童委員	1 5.9%
13 その他	1 4.0%				
14 相談先が分からない	0 0.0%				
15 相談しない	0 0.0%				
16 (その他の内容)					
相談には至らない些細な相談					

★設問7について

- ・回答者全体でみると市行政への相談・連絡の割合が高くなっている。
- ・学童保育以外では、「市行政」、「県行政」、「教育委員会」、「学校」といった行政機関が上位を占めており、各行政機関との連携が普段から十分にとれているためと思われる。
- ・学童保育では、その特質から学校や家庭との連携が強いといえる。
- ・「民生委員児童委員」や「主任児童委員」、「社会福祉協議会」の割合は低く、子育ての機関にとって相談先や連絡先としてはあまり認識されていないといえる。

設問8-1：設問7の関係者や関係機関に相談や連絡をしたことで、
Iで回答された内容は解決しましたか。

＜回答者全体＞			＜学童保育＞			＜保育所・幼稚園・NPO等＞		
[選択肢]	[人]	[割合]	[選択肢]	[人]	[割合]	[選択肢]	[人]	[割合]
	n = 25			n = 8			n = 17	
1	多くは解決した	10 40.0%	あまり解決していない	3 50.0%	多くは解決	9 52.9%		
2	あまり解決していない	9 36.0%	ほとんど解決していない	1 16.7%	あまり解決していない	6 35.3%		
3	解決した	3 12.0%	解決した	1 16.7%	解決した	2 11.8%		
4	ほとんど解決していない	1 4.0%	多くは解決した	1 16.7%	ほとんど解決していない	0 0.0%		
5	無回答	2 8.0%	無回答	2 33.3%	無回答	0 0.0%		
	n = 23			n = 6			n = 17	
1	解決 (解決+多くは解決)	13 56.5%	解決 (解決+多くは解決)	2 33.3%	解決 (解決+多くは解決)	11 64.7%		
2	解決しない (あまり+ほとんどしない)	10 43.5%	解決しない (あまり+ほとんどしない)	4 66.7%	解決しない (あまり+ほとんどしない)	6 35.3%		

★設問8-1について

- ・「解決」と「解決しない」の割合は、学童保育とそれ以外とで逆の結果である。これは、それぞれの機関の持つ機能の違いによるものとも考えられる。学童保育は、学校や家庭との連携により、家庭での養育の支援することが機能の一つであり、保育所や幼稚園は保育・幼児教育の場であり、子どもに関する課題の解決も機能の一つである。
- ・設問7と考え合わせると、保育所や幼稚園等では、課題解決機能が各行政機関との連携によって発揮されているといえる。学童保育では、学校や家庭、同一機関内での連携が中心であり、連携先の広がりが大きくないために、相談や連絡による適切な対応が困難であると考えられる。

設問8-2：設問8-1で回答した理由(解決したり、解決しなかった理由)についてお聞かせください。

[選択肢]	＜学童保育＞	＜保育所・幼稚園・NPO等＞
1	多くは解決した ・同僚で話し合い経過を見て解決。	・保護者との信頼関係がうまく築けており、解決に繋がった。 ・子どもに身近に細かくサポートができるようになったため。 ・連携を大切にしており様々なものへ繋ぐようにして解決した。 ・関係機関への連絡によりその後のケアに繋ぐことができた。
2	解決した ・学校との連携の強化。 (情報交換、共有連絡帳)	・解決に向け進行中。関係者の情報共有化により見えてきている。 ・他機関と連携し、相談者の気持ちに寄り添うことができた。
3	あまり解決していない ・早期の改善は難しい問題。 ・決定的な手立てが見つからず他機関との連携が難しい。 ・話し合いや等で解決できる場合もあるが、専門的知識がないと悩みを聞くだけになる場合もある。	・親自体の変化(考え方等)が見られない。 ・長期間に及ぶため、解決に至っていない。 ・関係機関へ繋いでも、すぐには改善されない。 ・家族内の課題のために発信できない部分が多い。 ・プライバシーに関する内容のため、どこまで踏み込むか難しい。 ・解決したケースよりも解決していないケースが多いため。
4	ほとんど解決していない (回答無し)	(回答無し)

★設問 8 - 2 について

- ・設問 7、設問 8 - 1 と合わせて考えると、保育所・幼稚園等においては、行政機関等との連携を上手に活用することで、課題の解決に結びついていると考えられる。
- ・学童保育では、他機関連携が十分になされていないこと、専門職の配置の有無も解決につながるか否かの要因になっていると思われる。これについては、平成27年から保育士、社会福祉士の有資格者などが都道府県の研修を受講して得られる資格である放課後児童支援員の2名以上の配置が必要となったことで、関係機関との連携や課題解決に変化が生じるとも考えられる。

設問 9 : あなたの立場で、I で回答された内容を解決するために

必要なことは何だと思いますか。(5肢以内選択)

[選択肢]	＜回答者全体＞			＜学童保育＞		＜保育所等＞	
	n = 25			n = 8		n = 17	
1 あなたにとって、子どもや家族の課題について、専門的な相談や連絡ができる窓口があること。	17	68.0%		2	25.0%	15	88.2%
2 子どもや親の情報(気になる点や生活課題など)について、関係者間での情報の共有があること。	15	60.0%		6	75.0%	9	52.9%
3 あなたが関係機関や関係者に相談や連絡をした際、結果の報告を受けること。	13	52.0%		3	37.5%	10	58.8%
4 あなたが関係機関や関係者に相談や連絡をすること。	11	44.0%		2	25.0%	9	52.9%
5 子どもや家族が相談しやすい場所があること。	11	44.0%		3	37.5%	8	47.1%
6 あなたに市役所の協力があること。	10	40.0%		3	37.5%	7	41.2%
7 あなたの身近に相談できる人がいること。	7	28.0%		3	37.5%	4	23.5%
8 あなたがなんでも相談・連絡できる窓口があること。	6	24.0%		1	12.5%	5	29.4%
9 地域の人たちが、日頃から子どもや保護者の見守りをすること。 (身なり、清潔、傷の有無、痩せ具合、家からの怒号や泣声など)	6	24.0%		2	25.0%	4	23.5%
10 児童福祉関係者間での連携や調整が上手くとれること。	6	24.0%		3	37.5%	3	17.6%
11 地域の人たちが、日頃から子どもや保護者の日常生活を支援すること。 (一時預かり、悩み相談、情報の提供など)	5	20.0%		1	12.5%	4	23.5%
12 子どもや保護者が気軽に参加できる地域交流の場があること。 (夏祭りや運動会などのイベント、フリースペースなど)	5	20.0%		2	25.0%	3	17.6%
13 生活上の課題のある子どもや家族の個人情報が開示されること。	3	12.0%		1	12.5%	2	11.8%
14 あなたに地域住民の協力があること。	2	8.0%		1	12.5%	1	5.9%
15 あなたに社会福祉協議会の協力があること。	2	8.0%		1	12.5%	1	5.9%
16 あなたが夜間休日等でも相談や連絡ができる窓口があること。	1	4.0%		0	0.0%	1	5.9%
17 あなたが地域の区役員との連携や調整が上手くとれること。	1	4.0%		1	12.5%	0	0.0%
18 特になし	0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%
19 その他	0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%

★設問 9 について

- ・全体としては、課題の解決にとって、職員にとっての専門的な相談窓口と情報の共有、相談結果の報告が必要との意見が多い。地域の見守りや日常的な支援、交流などについては少数である。
- ・学童保育では、情報の共有のみが70%を超えている。
- ・保育所・幼稚園等では、専門的な相談窓口の必要性が80%以上をであり、以下、相談結果の報告、相談をすること、情報共有と60%以下で続く。
- ・子どもの課題は、職員や機関として解決を行い、そのための相談や情報共有が重要であると考えていることがわかる。地域の見守りや日常的な支援、交流などは、課題の「解決」にはあまり効果的ではないとの意見である。しかし、これらは課題発生予防や早期発見等の側面で効果的であることを考えれば、職員を含む子育ての機関と地域による活動の連携についても検討することが重要である。

Ⅲ. 子どもや子育て中の家族が安心して暮らせる地域づくりのための ご意見等がありましたらお書きください。

- 悩みを持つ家族や相談しづらい親に「相談しやすい場（環境）」を作る。
- 相談連絡等の窓口や相談にのれる人が身近にあることが必要。
- 窓口情報等の周知も大事なこと。
- 地域の子育てに関する包括的な場（日常的な交流や地域と子育て家族の交流の場など）が必要。
- 子どもたちが安心して遊べる施設・設備の充実。
- 困った時に活用できる場所づくり。
- 安心して子どもを預けられる施設づくり。
- 地域全体による子どもの安全を見守る環境作り。
- 地域性を生かして、孤独な家庭を見落とさないようにする。
- 緊急時（病気等）、保育園で受けられない場合にサポートできる施設。
- 安易に出来ないと答えず、方法を一緒に考え、道を築いていく事。

★Ⅲについて

- ・相談しやすい窓口や身近な人の存在、日常的な交流や地域と家族の交流、地域の見守りや早期発見の仕組み作りなどが安心して子育てができるために必要との意見である。
- ・設問9でも述べたが、専門機関と地域がともに子どもを育てる仕組みを作ることが必要である。

◎まとめ

- 1 保育所・幼稚園等においては、保護者からの相談や子どもの様子から専門職が課題を発見し、それを各行政機関等に相談・連絡することで解決へと結び付けているということが分かった。また、相談・課題の割合や内容から、保護者の子育てについての不安の強さがうかがえる。また、子どものことのみならず家庭のことまで相談が及ぶなど相談の質的な広がりもあり、相談への対応の困難さがうかがえた。
- 2 学童保育においては、その機能や職員配置などから、家庭内の課題を早期に発見できない場合もあるものと思われる。また、相談や課題の発見があったとしても、うまく相談・連携ができず解決まで結びついていない。
- 3 課題の解決ばかりでなく、課題の早期発見や予防のためには、地域における様々な交流の機会やそのための施設・設備の整備、地域の見守り活動などが必要であり、これらが子育て専門機関と連携することにより、安心して子育てができるといえる。

